

はじめに

昭和二〇年八月一五日の終戦（敗戦……。どう呼ぶかでその人の歴史観が問われたりするのだが……。）から既に七〇年以上が経過した。人が死ぬ運命から逃れられない以上、戦争を体験した日本人は年々少なくなっていく。今後戦争がなければ、いつかゼロになってしまふ。戦争がないのはいいが、歴史から学ぶ、という観点からすれば、戦争があったという歴史を語る「証人」は必要である。そんなことから、今「戦争遺跡」が注目されている。

筆者は一応史学科卒業で、今でも細々と中世城郭の研究を続けている。また、市役所就職後に文化財保護の部署に配属され、文化財の調査・普及に従事したこともある。本書に関係したところでは、埼玉県の近代化遺産調査や学童疎開調査にも関わった。筆者が城の研究を始めたころは、城は権力者のもの、戦争に関わるものとして研究の場ではどちらかという忌避されてきた。ましてや、近代の戦争に関する遺跡など、ちよつと極端な言い方をすれば無視に近いような存在だったと思う。戦争に関する遺跡を積極的に保存しようとする考えはあまりなかったように思う。しかしながら、その後も戦争のない日々が続いたこと、沖繩を中心に「戦争遺跡」の価値が見直されてきたこと、近代化遺産の一部として戦争に関する遺跡が調査・研究の対象となったことなどから、次第にこうした雰囲気は変わってきた。「戦争遺跡」に関するガイドブックも出版されるようになってきた。関東

でも、茨城・群馬・千葉・神奈川などの代表的な「戦争遺跡」を紹介した本が刊行された。しかしながら、埼玉県では今のところ、こうした本は出版されていない。また、インターネット上で「戦争遺跡」を紹介する記事もあり、そこで埼玉の「戦争遺跡」が取り上げられていることも多い。とはいえ、あるホームページに掲載されている遺跡が別のホームページでは掲載されていないこともあるし、あまり知られていないものについてはネット上で記事が探せないなど、情報はまだまだ断片的である。県内全域の「戦争遺跡」をまとめた本が欲しい。でも、出ない。欲しいけれども出ないのなら、自分で作ってしまおう……。それが本書刊行の動機である。

先述したように筆者の主な問題関心は城であって、近代については門外漢で、戦争についての知識は乏しい。もしかしたら、現役の実験生以下かもしれない。したがって、どうしてもいろいろな先行研究をコピーしたかのような記述となってしまうのは避けられない。多分、読んでいけば「この著者、あまり詳しくないなあ」「知識が浅いなあ」と気づかれてしまうと思う。でもそれでいいのだ。本書はあくまで「きっかけ」だと思っている。個々の歴史を語る本ではなく、研究書でもない。今残るモノの案内書だと割り切っていただければ良い。いずれ、より詳しい著者なり公的機関が、よりよい本を作っていただければそれでいい。それまで、県内の「戦争遺跡」に興味のある方の手伝いが少しでもできれば、本書は十分にその役目を果たせると思っている。

本書で扱う「戦争」は日清戦争から第二次世界大戦（太平洋戦争・十五年戦争・アジア太平洋

戦争・大東亜戦争……。こちらもどう呼ぶかでその人の歴史観が問われたりするのだが……。)までの対外戦争とする。また、「戦争遺跡」という言葉は、一方で対象が曖昧との評価もあり、それも一理あると思われる部分もある。本書では「戦争があつたことを示すもの」といった意味合いで、記念碑など後につくられたものも含めて使用しているのでご了承願いたい。

本来なら知る限りのものすべてを紹介したいところのだが、私有地や学校敷地・自衛隊敷地などにあつて、所有者に迷惑がかかりそうな場所や立ち入りが制限されている場所、整備がされていないため危険な場所などはあえて紹介しなかったり、紹介しても地図上で所在地を明示しなかったりしていることをご容赦願いたい(既に市町村史等で位置が公表されているものは、紹介している)。誰だつて、自分の土地に無断で入られたら、良い気はないだろう。以前、ある市から城郭調査を依頼されたことがあり、ある山(所有者のご自宅の裏山)にあつた城跡を調査した。調査成果は活字化されたのだが、公表直後からその山に無断で入る者が続出した。嫌になつた所有者は、山を立ち入り禁止にしてしまった。調査自体にはとても協力的だったので、その後の「城好き」達の行為が相当嫌だったのだろう。そうなつては困る。やはり最低限のマナーは守ってほしい。自分さえ見られれば良い、というのではない。その点も考慮の上活用いただききたい。

なお、「埼玉県平和資料館(埼玉ピースミュージアム)」、「原爆の凶丸木美術館」をはじめとする博物館・資料館については、直接の紹介対象とはしていませんのでご了承いただきたい。

はじめに……………1

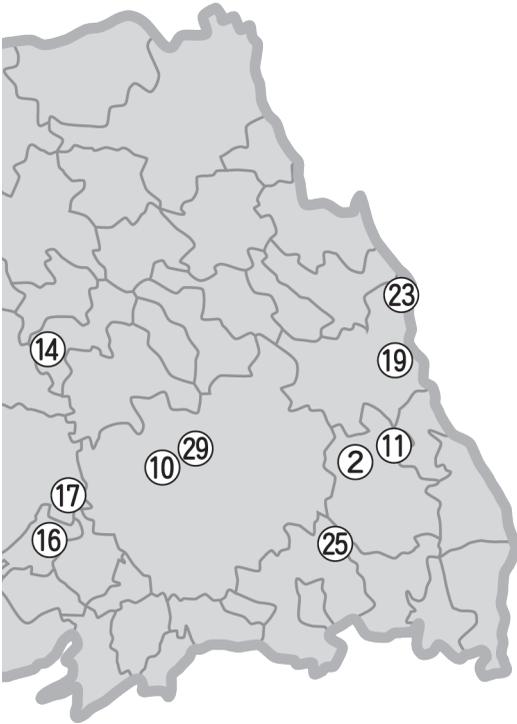
所沢飛行場	8
越谷飛行場	21
狭山飛行場	29
高萩飛行場	35
坂戸飛行場	40
松山飛行場	51
小原飛行場	55
児玉飛行場	59
コラム 動物と戦争	68

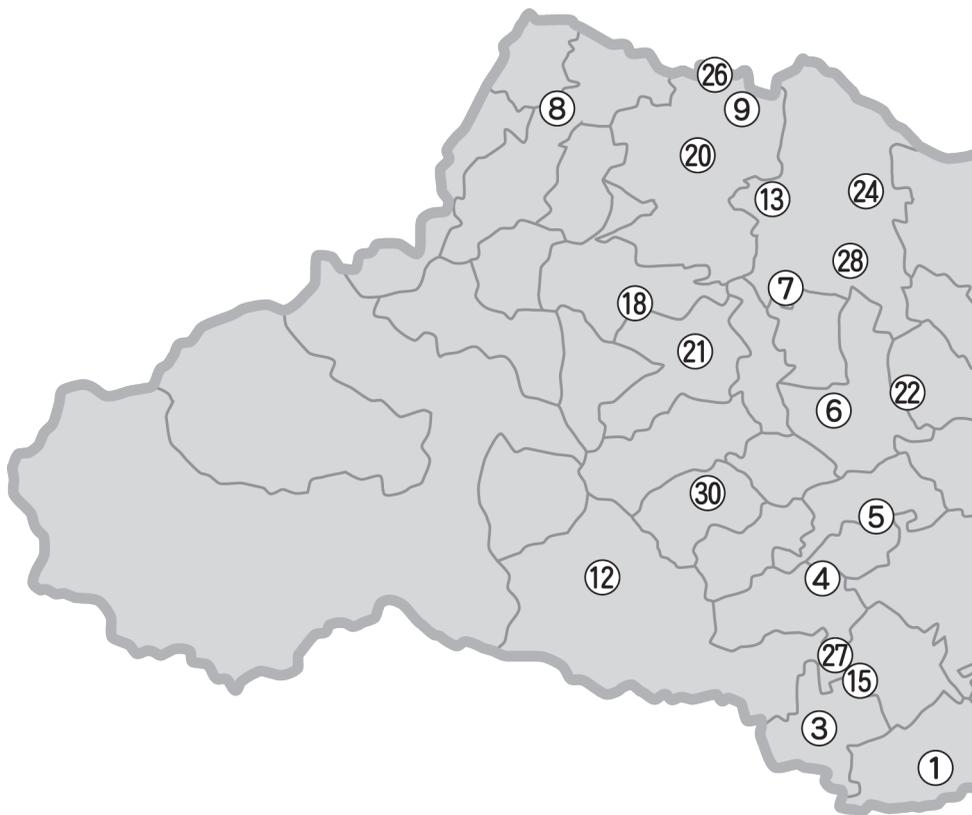
東雲寺の魚雷	69
普門院の海軍兵器	73
分捕品と戦利兵器奉納碑	76
秩父御嶽神社	79
コラム 忠魂碑	87
熊谷陸軍飛行学校	88
熊谷陸軍飛行学校桶川分教場	92
陸軍航空士官学校	101
コラム 防空監視哨	104

	東京第一陸軍造兵廠川越製造所	106
	浅野カーリット	113
	鉢形航空廠	117
	服部時計店南桜井工場	123
	深谷製造所	126
	コラム 風船爆弾	133
	高谷地下壕群	134
	吉見地下軍需工場	138
	コラム 学童疎開	143
	江戸川耐重橋	145
	常光院の梵鐘	148
	B 29搭乗員慰霊碑	151
	コラム 防空壕	155
	上武大橋	156
	笹井空襲	159
	熊谷空襲	163
	埼玉縣護國神社	170
	世界無名戦士之墓	174
資料	県内学童疎開一覧……………	178
資料	『埼玉県の近代化遺産』収録の戦争関係遺構……………	184
あとがき……………		186

本書で紹介する埼玉県戦争遺跡

- ①所沢飛行場
- ②越谷飛行場
- ③狭山飛行場
- ④高萩飛行場
- ⑤坂戸飛行場
- ⑥松山飛行場
- ⑦小原飛行場
- ⑧児玉飛行場
- ⑨東雲寺の魚雷
- ⑩普門院の海軍兵器
- ⑪分捕品と戦利兵器奉納碑
- ⑫秩父御嶽神社
- ⑬熊谷陸軍飛行学校
- ⑭熊谷陸軍飛行学校 桶川分教場
- ⑮陸軍航空士官学校
- ⑯東京第一陸軍造兵廠 川越製造所
- ⑰浅野カーリット
- ⑱鉢形航空廠
- ⑲服部時計店南桜井工場
- ⑳深谷製造所
- ㉑高谷地下壕群
- ㉒吉見地下軍需工場
- ㉓江戸川耐重橋
- ㉔常光院の梵鐘
- ㉕B 2 9 搭乗員慰霊碑
- ㉖上武大橋
- ㉗笹井空襲
- ㉘熊谷空襲
- ㉙埼玉縣護國神社
- ㉚世界無名戦士之墓





所沢市



所沢飛行場

「航空発祥の地・所沢」。市のシンボルマークは飛行機をベースにしているし、市のイメージマスコット「トコロん」は、頭にプロペラをつけている。これは、明治四四年四月、日本で最初の陸軍飛行場が、所沢町・松井村（ともに現、所沢市）に開設されたことによる。施設は前年には竣工して、飛行機格納庫・気象測定所・軽油庫・滑走路があった。四月には徳川好敏大尉操縦のアフリ・ファルマン機が初飛行に成功している。大正元年の陸軍特別大演習では、一月一七日に天皇の行幸があった。大正二年三月二八日には、所沢飛行場に向かうブレリオ式飛行機が墜落、木村鈴四郎陸軍砲兵中尉と徳田金一陸軍歩兵中尉が亡くなった。日本初の飛行機墜落死亡事故である。

施設は何度か拡張されている。第一回の拡張交渉は大正七年一月から始まった。第一次世界大戦の過程で飛行機の重要性を認識した軍部が、施設の充実のために企画したものと考えられる。その後も飛行場は拡張が繰り返され、当初七六・三haだった敷地は三六五・三haとなっている。

防衛研究所図書館蔵の、昭和一八年四月調によると、概要は次ページの表のとおり。

所沢陸軍飛行場 入間郡所沢町

面積	東西一、八〇〇米 南北二、〇〇〇米
地面ノ状況	概ネ平坦ナルモ南北一北東ニ向ケ緩徐ナル下り片勾配ヲ為ス 硬度ハ普通ニシテ一面ニ良好ナル植芝密生ス
目標	所沢町、村山、山口両貯水池
障碍物	場内中央ニ格納庫多数アリ
離著陸特殊操縦法	著陸方向ハ通常南又ハ北トス
格納設備	格納庫（大型、小型機用）多数アリ
照明設備	場周灯アリ
通信設備	
観測設備	陸軍気象観測所アリ、航空気象ヲ観測ス
給油設備	完備ス
修理設備	修理施設完備ス
宿泊設備	兵舎アリ
地方風	全年ヲ通ジ北風多シ
地方特殊ノ気象	暴風ハ三及四月ニ多シ、霧ハ七、八月頃多ク、雷雨ハ七月及八月頃来襲ス
交通関係	所沢駅（武蔵野鉄道）南方約二軒
其ノ他	

飛行場は航空教育の場として重視された。大正八年四月に陸軍航空学校が創設される。大正一三年には所沢陸軍飛行学校となり、昭和一二年に陸軍士官学校分校の新設に伴って廃校となった。少年航空兵教育のための東京陸軍航空学校（のちの東京陸軍少年飛行兵学校）は昭和八年に設置され、昭和一二年に村山村（現、武蔵村山市）に移転した。昭和一〇年には陸軍航空技術学校が創立、後に立川町（現、立川市）に移転。一二年には陸軍士官学校分校、所沢陸軍航空整備学校が新設される。陸軍士官学校分校は翌年豊岡町（現、入間市）に移転。所沢陸軍航空整備学校は昭和二〇年二月に閉校し、第三飛行教育隊と所沢教育中隊に再編成された。

設立が古いためか、県内のほかの軍関係

施設と比べて町場との関係が深い。設立については、町民も歓迎していた。明治四年の初飛行の際には多くの見物客が訪れた。周辺では絵葉書や玩具が売られ、見物客はこれを土産に買い求めた。「将校ハウス」と呼ばれた士官向けの洋風建築の貸家が建てられた。遊郭もあった。所沢飛行場駅・所沢飛行場前駅もあった。

一方で、飛行場の存在もあってか所沢町は頻繁に空襲を受けている。昭和一九年二月三日の空襲では死者一名、負傷者六名が出た。昭和二〇年になると所沢町では空襲一五回のほか、宣伝ビラも散布された。

終戦後、飛行場には進駐があり、基地として使用されなかった部分は開拓地となった。その後、米軍通信基地として利用されている地域を除き、基地跡地は公共施設や住宅が建設された。中心部は所沢航空記念公園となり、平成五年開設の所沢航空発祥記念館がある。

公園一帯は「航空発祥の地」として市の史跡となっている。記念館前、C-46の脇に「航空発祥の地」の記念碑がある。記念館の南西には「所沢航空発祥一〇〇周年記念碑」があり、「明治四四年四月一日この地に我が國で初めて飛行場が開設されました」と刻まれている。その南、東西方向に走る窪みがかつての滑走路跡である。東端には明治四四年四月にこの地を飛び立ったアンリ・ファルマン機をイメージしたモニュメントがあるほか「一九一一年の所沢飛行場」と題した旧施設の案内図と、実景にアンリ・ファルマン機を合成した写真を載せた案内板がある。茶室彩翔亭（かつて格納庫があった場所）の南西付近には「大正天皇御駐輦之跡」碑がある。天皇行幸を記念して建立された。また、「日本航空の父」と呼ばれるフランス航空教育団の団長、フオール



【所沢飛行場跡地図】

- ① 航空発祥の地記念碑 ② 航空整備兵の像 ③ 100周年記念碑
- ④ 旧滑走路 ⑤ 大正天皇御駐軍之跡 ⑥ フォール大佐像
- ⑦ 防空壕 ⑧ 木村・徳田両中尉像 ⑨ 陸軍用地杭

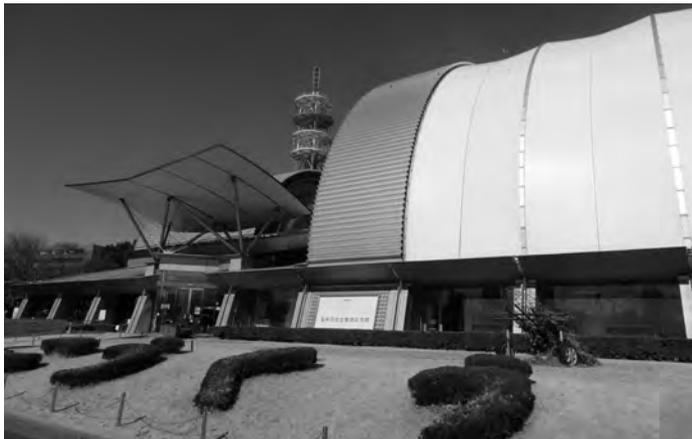
出典：国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図



所沢航空記念公園遠景



記念館前に展示される
「中型輸送機 C-46」と
「航空発祥の地碑」



所沢航空発祥記念館



アンリ・ファルマン機を
イメージしたモニュメント



所沢航空発祥百周年記念碑



大正天皇御駐輦之跡

大佐の胸像がある。昭和三年四月に所沢陸軍飛行学校の校庭に建立されたものだが、金属供出により台座だけが残っていたのを復元したものである。野外ステージ東側に一本のコンクリート製の杭のようなものが建っている。特に説明板はないが、アメリカ軍が駐留している際に、防空壕のあった場所である。元は飛行場にあったものを利用したものだが、戦後日本に防空壕：というのは気になる。滑走路跡の東側には昭和一九年五月二一日に航空整備学校内に建てられた「航空整備兵の像（少年飛行兵像）」が移設されている。南東に下った池の脇には墜落事故で亡くなった木村・徳田両中尉像がある。当初は墜落地にあったが、何度か移転を繰り返して、現在地に落ち着いている。



フォール大佐胸像と
来日した団員の名前が刻まれた
プレート



防空壕跡



木村・徳田両中尉像



航空整備兵の像（少年飛行兵像）



所沢市消防団第二分団前にある
「陸軍用地」の杭



掛け替えられた旭橋

公園周辺を見てみよう。所沢市消防団第二分団前に「陸軍用地」と刻まれた杭が残っている。陸軍東京憲兵隊赤坂憲兵分署隊所沢分遣所に伴うものである。南にある旭橋は、飛行場開設の際に造られた。最初は土橋であったが、飛行場の拡張により昭和五年三月に架け替えられた。国登録有形文化財になっている。



同境内の大正天皇行幸記念碑



鳥船神社（所澤神明社内）



航空殉難英霊供養塔（新光寺）

所澤神明社には飛行場があったことに由来する鳥船神社（所澤航空神社）があるほか、大正天皇行幸記念碑がある。

新光寺には昭和二年七月二八日の事故で亡くなった畑少佐・伊藤大尉を供養するため昭和一六年に建てられた「航空殉難英霊供養塔」がある。



現在の下富調整池の様子



下富調整池と砂川堀の案内看板



市役所西口玄関前広場にある被爆敷石

下富調整池は、飛行場の廃水処理のため、昭和一六年に建設された。周辺には誘導路があり、掩体壕も造られていた。県内にあった掩体壕は、戦争末期に造られたものが多いためか、ほとんどが土塁によるものであったが、所沢では鉄筋コンクリート造りのものもあった。現存するものはない。

飛行場とは直接関係はないが、所沢市役所西口玄関前広場に広島市役所旧庁舎の被爆敷石が移設されていることを紹介しておきたい。



【所沢飛行場跡周辺戦争遺跡地図】

- ①旭橋 ②所澤神明社 ③新光寺 ④下富調整池

出典：国土地理院発行 2.5 万分 1 地形図

参考文献

- 所沢市史編さん委員会『所沢市史 文化財・植物』所沢市 一九八五
埼玉県『新編埼玉県史 資料編二〇 近代・現代二 政治・行政二』一九八七
所沢市基地対策協議会『基地返還を求めて』所沢市企画部基地対策室 一九八九
所沢市史編さん委員会『所沢市史 現代資料』所沢市 一九九〇
所沢市史編さん委員会『所沢市史 下』所沢市 一九九二
埼玉歴史教育者協議会『知っていますか 埼玉と戦争』一九九五
里田冴子「掩対壕と飛行場周辺の民たち」所沢市教育委員会『所沢市史研究』二二 一九九八
所沢市教育委員会『富岡・所沢の石造物』二〇〇〇
所沢市教育委員会『小手指・新所沢・並木の石造物』二〇〇四
所沢市教育委員会『ところざわ歴史物語』二〇〇六
所沢市教育委員会『飛行機、浦町、ディープなマチ場』二〇一六
三上博史「思い出で綴る故郷・所沢散歩」(ホームページ)
所沢市ホームページ
所沢市立所沢図書館ホームページ
「戦争遺跡データベース」(ホームページ)

埼玉県における学童集団疎開受入状況

埼玉県平和資料館『学舎の子どもたち』（1994）所収の一覧を簡略化

学校名	疎開先	現市町村名	学寮施設
神田区（現千代田区） 錦華国民学校	本庄町	本庄市	安養院 仏母寺 慈恩寺 泉林寺
	児玉町		玉蓮寺 実相寺 玉蔵寺 島屋旅館
	丹壮村	神川町	長慶寺 普門寺
	青柳村		大光普照寺 石重寺
神田区 神田国民学校	本庄町	本庄市	円心寺
	賀美町	上里町	大光寺
	神保原村		安盛寺 善台寺
	七本木村		休安寺
神田区 千桜国民学校	加須町	加須市	光明寺 野金料理店
	三俣町		龍蔵寺 地蔵院
	樋遣川村		聖徳寺
	騎西町		浄楽寺 玉敷神社
神田区 橋本国民学校	荒木村	行田市	東福寺 真観寺
	忍町		宝積寺 港屋旅館 蓮華寺 正覚寺

学校名	疎開先	現市町村名	学寮施設
神田区 西神田国民学校	不動岡村	加須市	総願寺
	手子林村	羽生市	富徳寺 福生院
	羽生町		建福寺 正覚院
	井泉村		源長寺 長善寺
	新郷村		祥雲寺
神田区 芳林国民学校	幸手町	幸手市	聖福寺 正福寺 朝万旅館 義語屋旅館
	栗橋町	栗橋町	浄信寺 顕正寺 深広寺
	静村		宝聚寺
神田区 小川国民学校	幸松村	春日部市	仲蔵院 浄春院
	宝珠花村		宝蔵院
	桜井村	杉戸町	倉常寺
	富岡村	幸手市	正明院 宝聖寺
神田区 淡路国民学校	吉川町	吉川市	延命寺
	旭村		正覚寺
	松伏領村	松伏町	静栖寺
	金杉村		観音寺
神田区 今川国民学校	篠津村	白岡市	忠恩寺 興善寺
	三箇村	久喜市	永勝寺 長龍寺
	菖蒲町		吉祥院 永昌寺
	小林村		正眼寺
	栢間村		幸福寺

上げたものでも、もしかしたら、筆者の探訪後に失われてしまったものもあるかもしれない。参考に『埼玉県の近代化遺産』に掲載された戦争関係の遺構をのせておいたが、そのほとんどが現存していないことに愕然とする。本書を参考に現地に行ったら既になかった……ということがあれば申し訳ない。一方で桶川の旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場や上武大橋のように、整備・公開された姿を紹介できたものもある。今後新しく発見され、公開されるものもあるだろう。もしかするとそれらを紹介する機会もあるのかもしれない。正直なところ、いまだに「え？こんな文献があつたのか」とか、「こんなものもあつたんだ」の連続で、まだまだそれは続くだろう。

ちなみに、本書はもつと写真の少ないものを想定していたのだが、まつやま書房の担当がノリノリ？で写真を多くいれていただいた。おかげで見易いものになったと思う。感謝したい。

福岡県や沖縄県では、県による戦争遺跡報告書が刊行されている。できれば、埼玉県でも戦争に関する「モノ」の全容を把握する調査が行われ、保存を検討する基礎となってくれればいい、と思う。本書がそのきっかけとなるなら、うれしいことである。

著者紹介

関口 和也 (せきぐち かずや)

1964年、埼玉県川越市に生まれる。上智大学文学部史学科卒。

市役所職員として、文化財保護係在職中に埼玉県の近代化遺産調査、学童疎開調査、国立歴史民俗博物館の板碑データベース作成のための調査等に従事。2019年、市役所を退職するが、諸事情により同じ市役所でのアルバイト、再就職、退職を繰り返し現在に至る。城郭史料研究会会員。

執筆に参加したものとして、

『図説中世城郭事典 1』(新人物往来社 1987)

『日本中世史研究事典』(東京堂出版 1995)

『図解近畿の城郭 I～V』(戎光祥出版 2014～2018)

『近世城郭の謎を解く』(戎光祥出版 2019)など。

埼玉県の戦争遺跡

2023年4月30日 初版第一刷発行

著者 関口 和也

発行者 山本 智紀

印刷 モリモト印刷株式会社

発行所 まつやま書房

〒355-0017 埼玉県東松山市松葉町3-2-5

Tel.0493-22-4162 Fax.0493-22-4460

郵便振替 00190-3-70394

URL:<http://www.matsuyama-syobou.com/>

©SEKIGUCHI KAZUYA

ISBN 978-4-89623-189-2 C0021

著者・出版社に無断で、この本の内容を転載・コピー・写真絵画その他これに準ずるものに利用することは著作権法に違反します。

乱丁・落丁本はお取り替えいたします。

定価はカバー・表紙に印刷してあります。